

令和 5 年度 和歌山県 英語教育改善プラン

目標

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ英語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる児童を育成する。

1. 現状

改善が進んだ点

① CAN-DOリストの活用

R4 99.6%

児童との学習到達目標の共有が進んだ。

② パフォーマンステストの状況

R4「話すこと[やり取り]」3.7回

「話すこと[発表]」3.8回

(1校あたりの年間平均実施回数)

パフォーマンステストによって学習状況を把握し、指導と評価の改善を図ることができた。

未だ改善が必要な点

① 言語活動の状況

R4 95.3%

R3年度より改善されたが、質の向上が必要。

② 英語の授業におけるICT機器の活用状況

「児童が一人一台端末等を活用」

R4 34.1%

ICT機器の活用の場面が限られている。

2. 分析

① 研修や学校訪問において、CAN-DOリストの意義を教員に伝えるとともに、市町村教委との連携による効果がでている。

② 小学校英語専科指導教員の地方別外国語教員研修に係る指導案検討会や、公開授業において、学習到達目標を見取るためのパフォーマンステストの研究及び成果の普及が進んでいる。

① コミュニケーションを行う目的・場面・状況を明確に設定した単元計画の作成や、それを基にした「言語活動を通じた指導」を行うことについて、地域・学校・授業者間に差がある。

② 学習者用デジタル教科書等ICT機器の効果的な活用方法の研究及び好事例の共有が必要である。

3. 施策・事業

①② 中学校における外部検定試験等の活用（中3対象に英検、中1・2対象に英検IBA）への接続として小6を対象に英検ESGを活用することにより、学習到達目標の児童生徒との共有や、達成状況の把握を学習評価につなげていく方法等を学び、実践的授業力の向上を図る。【小中連携】

②① 小学校英語専科指導教員の地方別外国語教員研修の一環として、県内教員を対象とした公開授業・研究協議を行う。その公開授業等を通して、「言語活動を通じた授業」の在り方や、指導方法について学ぶ。また、小中高特異校種の教員との交流を図ることにより、教員のネットワーク構築を図る。【小中高連携】

①② 取組状況の地域差や学校ごとの差を解消するため、市町村教委と連携して学校訪問やヒアリングを実施し、言語活動の状況や効果的なICT活用等について指導助言を行う。

・一定の英語力を有する教員を確保するため、教員採用試験において加点制度を設けている。また、英語の技能検定の成績等による免除も実施し、英語力を有する教員の確保に努めている。【新規採用に係る取組】

令和 5 年度 和歌山県 英語教育改善プラン

目標

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる生徒を育成する。

【生徒の英語力（中学卒業時英検 3 級）：R 5 年度目標 5 3.0% R 4 年度 5 1.1%】

1. 現状

改善が進んだ点

①生徒の英語力
英検 3 級相当
R4 51.1%
R3年度より減少したが、経年的にみると向上している。国の目標値は達成。

②CAN-DOリストの活用
R4 100%
生徒との学習到達目標の共有が進んだ。

未だ改善が必要な点

①言語活動の状況
R4 91.6%
R3年度より改善されたが、質の向上が必要。

②教員の英語使用状況
R4 95.4%
R3年度より改善されたが、指示にとどまらない英語使用が求められる。

2. 分析

① H 27 年度から外部検定試験等（中 3 対象に英検、中 1・2 対象に英検 IBA）を活用することにより、生徒の英語学習意欲の向上と、学習定着状況の把握による授業改善が進んでいる。
※R4からは、県独自の学習到達度調査も実施。

②研修においてCAN-DOリストの意義を教員に伝えるとともに、市町村教委との連携による効果がでている。

①②地域や学校間で 3 つの差がある。
・新学習指導要領を踏まえた授業改善の進捗状況の差。
・学習者用デジタル教科書等 ICT 機器の活用状況の差。
・外部検定試験等の活用に係る教員の意識の差。

3. 施策・事業

①外部検定試験等を継続して活用することで、生徒の学習意欲の向上と、学習定着状況の把握による授業改善を図る。小 6 対象の英検 ESG の結果分析を小中で共有する 【小中連携】

・全国学力・学習状況調査の結果を県でサンプル分析し、9月までを目途に課題や解決策等を検討する。その結果を教員に周知することで、授業改善を図る。

→中学校英語教員研修を9月上旬に実施し、2 学期以降の授業改善を図る。

②継続して周知する。

①②地域や学校間での 3 つの差の解消を目指すため、市町村教委と連携して学校訪問やヒアリングを実施し、言語活動の状況や教員の英語使用状況、効果的な ICT 活用等について指導助言を行う。

・中学校英語担当教員が、小学校英語専科教員の授業を参観・協議することで、小学校の学びを生かした指導の充実を図る。また、小中高特異校種の教員との交流を図ることにより、教員のネットワーク構築を図る。 【小中高連携】

令和 5 年度 和歌山県 英語教育改善プラン

目標

グローバル社会において活躍するために、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることのできる語学力・コミュニケーション能力・国際理解の精神などを身に付けた人材を育成する。

【生徒の英語力（高校卒業時英検準 2 級）：R 5 年度目標 60% R 4 年度 47.1%】

1. 現状

改善が進んだ点

- ①生徒の英語力
英検準 2 級相当
R4 47.1%
R3年度より改善された。
引き続き改善を図る。
- ②教員の英語力
英検準 1 級相当
R4 71.2%
R3年度より改善された。
引き続き改善を図る。

未だ改善が必要な点

- ①言語活動の状況
R4 57.9%
引き続き改善を図る必要がある。
- ②教員の英語使用
状況
R4 45.6%
引き続き改善を図る必要がある。

2. 分析

①外部専門機関と連携し、英語教員の研修会において、生徒のコミュニケーションを図る資質・能力を高めるための指導方法を普及できた。

②英語力を高めるための自主研修の在り方について、研修会等において指導し、特別受験制度の活用を促して積極的に外部試験を受験するよう指導した。

①校種間連携を図り、公開授業等を通して、英語担当教員が言語活動が中心となる授業づくりの重要性を再認識し、授業改善への意識を高められるような機会が十分ではなかった。

②学校訪問等において、生徒が英語に触れる機会の充実を図るよう指導することが十分ではなかった。

3. 施策・事業

①高等学校教育課程研究協議会において、協議・情報交換等の一層の充実を図るとともに、和歌山県高等学校英語授業改善研究協議会において英語で行うワークショップの実施を計画する。

・和歌山県高校生英語ディベート大会における参加生徒数の増加を目標にし、各学校に呼びかける。

・スタンフォード大学遠隔講座においては講座内容の更なる充実を図ると同時にアジア・オセアニア高校生フォーラムへの参加生徒の英語力向上を目指し、事前の生徒、指導教員へのオリエンテーションを充実させる。

・わかやま高校生クイズ in Englishにおいて、内容の質の向上と参加生徒数の増加を目指す。

①②和歌山県高等学校英語授業改善研究協議会において、生徒の英語による言語活動時間の割合及び使用状況が向上し、英語担当教員の授業における英語使用状況が改善する内容を再検討のうえ、実施する。